

会 議 録

会 議 名	令和6年度 第1回山形市文化財保護委員会
開催日時	令和6年7月18日（木）午前9時30分～10時40分
開催場所	山形市役所 10階 1001会議室
出席者	委員6名 荒木志伸委員、伊藤清郎委員、北野博司委員、佐藤琴委員、 長坂一郎委員、野口一雄委員、 事務局5名 平吹文化スポーツ部長、村上次長(兼)文化創造都市課長、 山川課長補佐、植松文化財管理調整主幹、茂木主幹
傍聴者等	傍聴者0名、記者0名
議 題	報告 (1) 市指定文化財の候補物件について ・中性院銅造菩薩立像 資料1 ・廣福寺木造釈迦如来坐像 資料2 その他
資 料	資料1 中性院銅造菩薩立像 資料2 廣福寺木造釈迦如来坐像

会議経過

- 1 開会（山川課長補佐）
- 2 文化スポーツ部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ（伊藤委員長）
- 4 報告

※山形市文化財保護条例第50条第2項の規定により伊藤委員長が議長となり、進行。

(1) 市指定文化財の候補物件について

※事務局及び委員から説明（資料1、資料2について）

委員長 立石寺中性院の銅造菩薩立像は、形態等の特徴から見て、8世紀、奈良時代の仏像で、調書には立石寺の創建にも言及されていますが、こういった仏像は後から持ち込まれた可能性はないのですか。

委 員 江戸時代に創建されたお寺に古い仏像があれば、どこから持ってきたということもあり得ます。ただ、他所から持ってくる場合に想定できることとしては、例えば権威付けや有力者の寄付が考えられますので、立石寺は、平安時代から天台宗の拠点寺院で、円仁伝承もあるような寺院ですので、わざわざ古い金銅仏を持ってくる意味がありません。当初から伝わったと考えるのが自然ではないでしょうか。

- 委員長 立石寺の創建にまで触れるのはなかなか大変なことですし、創建は9世紀で、金銅仏をその段階に他所から持ってきたと考えることはできないのでしょうか。
- 委員 考えられないと思います。奈良時代にあったお寺を天台宗化したと考える方が自然だと思います。
- 委員長 今のご意見も踏まえて、皆様からご質問やご意見をいただきたいと思います。県内では最上地域の真室川町に、鮭延氏と関連する奈良時代の金銅仏がありますが、その仏像との関連はあるでしょうか。
- 委員 場所が離れているので、関連はありません。
- 委員長 新旧についてはいかがですか。
- 委員 真室川の銅造如来倚像は、形は東京の深大寺の像に似ていますが、技法から見ると深大寺よりは新しく、奈良時代（8世紀）のものです。というのも、銅像を制作する際の技法として、鋳型の外型と内型をずれないように筭とか型持でつなぐのですが、7世紀までは型持と筭を別々に置き、8世紀になると型持に筭と一緒に差し込む技法が出てきます。真室川の仏像はその技法を採用しているので8世紀のものと判断されます。
- 委員長 中性院の仏像と同じ時期ですね。
- 委員 そうですが、中性院の仏像は調書にあるように、内型もないムクで制作されています。この技法も8世紀になって出てくるものです、また、何よりもウエストをギュッと絞ったところや、天衣を背中から腰まで持ってくるところ、同じく天衣を前面と背面で1回ずつ捻るなどの煩わしいくらいの装飾性を見せているので、そうした点が7世紀には他に例がありません。8世紀の後半以降、つまり鑑真以降の一本造りが出てくる頃になると表現が過剰になってきますが、それは晩唐の時代の影響による形と言われています。
- 委員長 鮭延の金銅仏は、鮭延氏が地頭として入る頃、あるいはその前、近江の佐々木一族の拠点地域から持ってきたと言われていますよね。
- 委員 その仏像も、奈良時代にその地方に入った豪族が持ってきたかもしれませんが、佐々木氏が持ってきた証拠は何もありません。
- 委員長 委員の皆様いかがでしょうか。
- 委員 今のような学術的な議論にもなりますが、まず、像の制作年代として、考察では8世紀代のもので、下限がどこまでいくかは私も分かりませんが、新しい時代の類例はないということですよね。金銅仏が仮に奈良時代の像であるとして、立石寺に來たのがいつかという問題は、やはり考古学でも物が作られた年代と使われた年代は分けて考えるので、調書にある「本像により立石寺の創建は奈良時代までさかのぼることになる」という表現とするまでの論理の補足があると良いと思います。その論理をこの調書には詳しく書けないので、調書だけ読むと、仏像が8世紀だから山寺の創建が8世紀に遡るというのは少し違和感があります。この像だけでも十分価値付けができていますので、ここまでどうしても書かなければいけないのかは疑問に感じます。
- 委員 そうすると、立派な像というだけで終わってしまいますし、やはり仏像や仏教は

歴史的現象であるという観点や何故それがここにあるのか、歴史的にどういう意味をもっているのかという視点で、仏像を解釈するのが今の研究方法です。ただきれいな仏像というだけでは、大昔の趣味人の世界になってしまいます。

委員　　そういうことではなく、解釈の点で飛躍が読み取れてしまうという意味で申し上げます。

委員　　立石寺が平安時代に天台宗になったのは、安慧が出羽の講師になった時に、域内の寺院をすべて天台宗化したという記録によるものです。ということは、平安時代に天台宗化される前にお寺があったことになりますし、その前にお寺がなければ立石寺が天台宗になるはずがありません。だから、その前のお寺は何かという問題になります。

委員　　仏像の評価はお任せしますが、県立博物館で立石寺の企画展をやる際、この仏像も借用したかったのですが、先住職が亡くなり、厨子の鍵がなくて開けられないということで、確認もできませんでした。ただ、地元のミニコミ誌に写真で紹介されていたので知られていた仏像です。私は、この仏像が中性院にあることが以前から引っかかっていました。例えば、『乚補(けいほ)出羽国風土略記』では、山寺一山の山上の寺院で最も重要な寺院は極楽院です。極楽院と本坊のみが門を構えられ、中性院はそういう寺ではありませんでした。また、中性院の名前が文献に出てくるのは、山寺夜行念仏の支配権が中性院に遷る明治に入ってからです。それ以前は平塩熊野権現(真言宗)一山の栄(永)蔵坊が夜行念仏の支配権をもっていました、明治の初年から中性院に遷っています。明治以前の中性院の立場は今でいう事務部長、所謂、役所的な立場でした。そういう中性院の性格を考えた時、この仏像は元々中性院にあったものではないのではという疑問があります。では、どこにあったのかということになります。

本来このような古い仏像であれば、何故本坊(あるいは根本中堂)に伝わっていないのかと疑問に思います。中性院は、院の裏には戸澤氏のお墓、正面には最上義光の御霊屋がありますが、義光霊屋は元々は極楽院側にありました。今の場所にあったものではありません。この仏像もあるときに中性院に祀られたのではないかと私は考えています。中性院に何故あるのか、疑問です。

なお、山上にあった文化財で一番古いものは、天養元年(1144)如法経所碑です。年号はありませんが、円仁頭部像は平安時代、三重小塔は1500年代の16世紀ですので、年号があるもので山上にあるものとして創建に関連するものではありません。

委員長　　仏像に対する評価は揺るぎないのですが、そこを巡る問題に関して色々議論が出てきますね。

委員　　造形的に確認したいのですが、蓮肉があるということは、蓮華座が後補ということよろしいですね。

委員　　そうです。

委員　　焼損があり、表面がザラっとして細かい部分が良く見えなくなっていることや、一番気になるのはウエストの部分の表現ですが、類例はありますか。

委員　　ないです。

委員 ないですね。このようにベルト状にウエストを絞っている金銅仏は私も見たことがないですし、もっとゆったりとした形で作り、普通ウエストは絞らないので、その点が造形的に気になるところです。

委員 だから、過剰な表現ということです。

委員長 焼けたというと、不滅の法灯の関係で天童氏による山寺焼き討ち事件などが浮かびますが、いかがですか。

委員 今までのご意見やご指摘を聞いていて、立石寺の創建に関わる可能性があるとしても面白い資料だと思いました。仏像や資料がどちらかというと伝承より先行する傾向にあるということも気になりますし、この仏像が中性院にあることについても気になっています。ただ、古代の地方寺院の展開を見た時に、立石寺が定額寺であった可能性は、「立石倉印」の存在により、金工の研究者からも指摘されています。定額寺は平安時代のある時期に文献上に出てくるわけですが、文献上に出てこない時期にも定額寺が置かれていて、災害など何か特別なことがあった時だけ、文献上に出てくるのが最近、指摘されています。地域の豪族や郡司クラスの人が寺院を持っていて、その寺院が災害などをきっかけに定額寺に指定されるタイミングがあり、その後災害が頻発し、平安時代、東北地方に天台宗の勢力がドバッと入ってくるという仏教史全体の流れの中で見ていくと、非常に価値がある資料だと思います。

委員長 出羽の定額寺は6カ寺知られていますが、その他にも多くの定額寺があり、その中に立石寺の前身となるお寺があるというそういう理解でしょうか。

委員 定額寺のイメージとしては、イチから建てるのではなく、既にあった寺院を今という国からの税金を定額寺の運営に充ててもらい、その代わりに豪族の寺院を格上げし、国家安寧のための活動をなささいという形らしいので 定額寺を研究されている方に聞くと、文献には出羽国は6カ寺と記載されていますが、実際はもっと多くあると言われています。その多くある中で、わざわざ文献に定額寺が置かれたと記載されるのは逆に何か特別な理由があり記録に残っているだけのようです。

そう考えると、立石寺が文献上に出てくる定額寺に該当するのか、文献上に出てこない定額寺に指定されているのか分かりませんが、いずれにせよ、天台宗が入ってくるタイミングにも、何もなかったところに入ってくるのではなくお寺や拠点的な何かがあったところに入ってくる可能性は十分考えられます。ただ、立石寺の創建が遡ると言ってしまうと、この資料だけをもっとみると、唐突な印象をもたれてしまうこともあるかもしれません。古い仏像を立石寺にわざわざ持ってくる必要はないというご意見はそのとおりですが、この調書だけではそこまで理解できなかったのもので、そういう補足があるとなお良いと思います。

委員 あくまで伝承に過ぎませんが、元立石寺と呼ばれるところがあり、この場所に常願寺跡という石塔が経っています。定額寺と常願寺は読みが似ているので、ひょっとしたらと一字変わった可能性もあると思いました。昔は山寺夜行念仏が最初にお参りする場所が常願寺で、それから山内に入っていましたので、定額寺が立石寺ということも考えられなくはないのかなと思います。

委員 以前の会議で松尾山観音に心木があるという話をしました。詳細は現在検討中ですが、心木であれば、木心乾漆造の芯木なので、奈良時代ですし、つまり松尾観音の場所に山岳寺院があったという証拠になります。そういう点では、立石寺も山ですし、寺院があった可能性はあります。奈良時代の後期には山岳寺院が多くできますがそうした寺院を支えたのは当時の豪族＝郡司ですので、そのような寺院がこの地域にもいくつかあり、平安時代になると天台宗化されたと考えるのが自然だと思います。

また、定額寺の話は立石寺と直接結びつかないとは思いますが、先ほど話があったように、出羽国は6カ寺で日本一多いです。次に多いのが信濃国ですが、その信濃国の定額寺は金刺^{かなさしのとねり}舎人氏という豪族と全て関係があります。金刺舎人氏は承和の変の際の藤原良房の実戦部隊です。定額寺は承和年間に集中的に指定されたのですが、金刺舎人氏の氏寺を定額寺にしたのは、藤原良房が承和の変で政権をにぎった時の論功行賞ではないかといわれています。出羽国の定額寺も同じような年代にまとめてできているので、出羽国の定額寺を支えた豪族も藤原良房と何か関係があるのではないかという想像もできます。藤原良房は陸奥国の按察使だったので、信濃国が論功行賞で預かった郡司豪族だとすれば、出羽国の豪族も同じことを考えるのではないかと思います。つまり、出羽国は蝦夷との境界の地であるので軍事的な豪族が想定できますし、中央の政策的な目的で定額寺が指定されたということも考えられるとも言われていますので、単に仏教史の流れだけではなく、中央の政治史との絡みからも考えて良いと思います。

委員長 藤原良房というと西暦800年代前半の摂関ですが、それが地方の政治対策として出てくるということですか。

委員 良房のブレインが円仁ですからね

委員長 大変面白いことになりますね。やがてそれが寒河江荘に繋がることにもなりますし、そうすると立石寺の裏山の雨呼山を通じて若松寺と繋がってきますね。どうでしょうか。

委員 雨呼山がらみだとするとう向宗ですし、若松寺は立石寺より一世紀古く、行基開基、円仁が中興の寺院ですので、私は、立石寺は若松寺と最初には関係なかったと思います。

委員長 仏像に対する評価は間違いないですが、問題は、最後の所見のところをどこまで踏み込むかということですが、いかがですか。

委員 繰り返しになりますが、私は何故、中性院かというところが引っ掛かります。

委員 括弧書きで「前身寺院も含め」という表現が落としどころでしょうか。

委員 今のような話であれば、中性院という具体的な寺院名を出さない方がいいと思います。

委員 現在管理しているのが中性院ということですね。

委員長 金銅仏を指定候補物件とするのは委員の皆さん問題ないですね。立石寺に対する配慮については、事務局の皆さん宜しくお願いします。ところで、構造で蓮肉部と一鑄ムクのムクとはどういう意味ですか。

- 委 員 空洞がないということです。
- 委 員 大仏は外側と中側の隙間に流し込んで作るのですが、そうではなく外側の型だけあって底に流し込むので中味が詰まっているということです。
- 委 員 重さを量れば比重で分かりますが重さは量らなかったのですか。
- 委 員 量りませんでした。
- 委員長 指定候補としてはよろしいですね。調書は今後、完成させることになります。それでは、次の廣福寺の仏像についてはいかがでしょうか。金勝寺の仏像よりは古く、いずれも最上氏、羽州探題、要するに守護がつくる仏像という評価で、所見の最後に最上の家臣がこういう仏像を作れるのかという疑問も出されています。金勝寺の仏像とよく似ていますね。
- 委 員 写真を見ていて、金勝寺の仏像とよく似ているので気づきました。特に胸の衣文の形と足の衣文の形が似ていましたし、調査で像底を見てみたら前後束もあったので院派の作品に間違いありません。
- 委 員 廣福寺の山門の二階に一切経が収まっているということですが、調査はされましたか。ひょっとするとこの仏像に関する関連性がある可能性も考えられますがいかがですか。
- 委 員 鉄眼版一切経ですので江戸時代のものですが、確認する時間もなかったので一切経は見ておりません。鉄原版の一切経がどういう価値があり、どの位残っているのかは私の専門外であり分かりませんので、書跡や歴史の研究者にどういう価値があるのか調査してもらった方が良いと思います。
- 委員長 可能であれば現地視察の時に見せてもらうことはできるのでしょうか。
- 事務局 今後、現地視察を予定しているので、その時に見せていただけるか住職にご相談したいと思います。
- 委 員 価値づけに関することについて異議はありませんが、常々感じているのは、こういった指定文化財の調査の際に、今後保存管理をしていく上での修理歴についての所見を残した方が良いということです。彩色についても観察して、漆が塗ってあるなど分かる範囲で記載すると良いと思います。
- 委 員 彩色は難しく、正直分からないところがあります。特に廣福寺の仏像は盛り上げ彩色があり、その文様が方広寺にある重要文化財の院吉の仏像にそっくりという研究者もいるので、本当はそこまで細かく入れられればいいのですが、彩色文様に関しては調書に記載できておりません。
- 委 員 もちろん分かる範囲で構わないですし、保存状態で何か懸念があるとすれば、やはり調書に修理歴や傷んでいる箇所を記載した方が良いと思います。仏像は現在、安定している状態ですか。
- 委 員 安定はしています。おそらく、布張りや漆塗りなどはおそらく江戸時代の修理だと思っています。ちゃんとした職人が修理していると思います。
- 委 員 調書に書くかは別として、事務局はそういう情報を持っていた方が良いと思います。
- 委 員 修理履歴に関連して、冠と胸飾はどうですか。

委 員 江戸時代のもですね。そういう情報まで記載すればいいのでしょうか…。

委 員 委員がいらっしゃる間はいいですが、後の代の方はそういった情報は伝えていないと分かりませんよね。

委 員 歴史の分野もそうでしょうが、私の後続く人もいません。

委 員 髻を取った後の頭頂部はどうなっているのですか。

委 員 ほぞ穴が空いたそのままです。

委 員 そうなると、管理上も少し気になります。

委 員 近世に仏像を修復していて、一切経も近世のものであれば、お寺の画期などとタイミングがあっている可能性もあるのでお寺全体の調査をしても良いかと思いました。

委 員 まさにその通りですが、そうなると総合調査の形にならないとなかなかできないですね。昔は歴史や彫刻、美術の研究者が一緒になった総合調査がありましたが今は国でもどこでもほとんどなくなりました。

委員長 廣福寺の木造釈迦如来坐像も候補物件として進めてよろしいですね。いずれ現場に行って確認したいと思いますが、では、今後の流れについて事務局説明をお願いします。

事務局 指定候補物件として進めることでご了承を得ましたので、今後の流れとしまして、秋ごろに現地視察を行いたいので、今後、日程調整の上、実施いたします。またその後問題なければ、今年度、次の保護委員会で諮問という方向に持っていければと思います。また今回の会議で委員の皆様より色々なご意見をいただきましたので、調書内容について今後精査していきたいと思います。

5 その他

委員長 それでは他にご意見がなければ、これにて終了いたします。

6 閉会（山川課長補佐）